

奥健夫著『意識情報エネルギー医学—スピリチュアル健康学への道』（エンタプライズ出版、2007）

著者 1965 年生まれ。原子核工学専攻修了。ナノテクノロジーと電子顕微鏡。滋賀県立大学教授。

はじめに 原子が集まって生命、心が生まれるというのは、あまりに不思議。

人はどこから来て、どこへ行くのか？

第 1 章 スピリチュアリティってなんだろう？

世界で 3500 件以上の論文。

2 つのアプローチ 1. スピリチュアル・ケア、 2. トランスパーソナル精神医学・心理学

第 2 章 医療におけるスピリチュアリティ

「傾聴」 相手をありのままに受け止める → 自分自身の傾聴 → 宇宙の傾聴

トランスパーソナル精神医学： 気功、ヨガ、瞑想、臨死体験、代替医療、心理療法、…

代替医療： 自然治癒力、癒し + 西洋医学 → 統合医療

第 3 章 スピリチュアル・ヒーリング

3 世代の医療： 1. 生化学的医療、 2. 心身医療、3. 非局在医療（スピリチュアル・ヒーリング）

スピリチュアル・ヒーリング

1. 非媒介的 電波などではなく、情報そのもの、 2. 非軽減的 遠隔地でも効果は減らず

3. 即時的 治癒が瞬間的に起こる cf 調査（祈りの効果）、実験例

量子テレポーテーション

宇宙の端と端でも情報伝達が瞬時 『ネイチャア』2006.10 （日本では古沢教授、2004）

= 意識の量子情報が、身体物質原子にテレポート

Cf ラズロ『叡智の海』35p~ 「相関（エンタングル）する粒子たち」

一度同じ状態をとったことのある量子どうしは、どんなに遠く離れていても結びあったままである。

最近の遠隔伝達（テレポーテーション）の実験では、相互関係を持つ一対の原子の一方を第 3 の原子と関係づけると、第 3 の原子の量子状態が、最初に相互関係のあった対のもう一方の原子に、それがどんなに遠く離れていようが、瞬間的に移される。（たぶん、古沢教授の実験例） → 非局在性

Cf 同、ポスト・ダーウィン生物学の世界 生物におけるコヒーレンス（一貫性）

一つの細胞や器官に起こったことは、他のすべての細胞や器官にも何らかの形で起こる。

人間の身体は、約一千兆個の細胞からなるが、これは銀河系の星の数よりもはるかに多い。毎日 6000 億個の細胞が死に、同じ数が新たに生まれている。…一貫性の水準は高いから、量子論的な過程が…

遺伝子と環境の相互結合…ゲノムの適応性は高い。危険にさらされると寸時に複雑な変化を遂げる。

Cf 同、人間意識の超個的（トランスパーソナル）な世界

Ex 双生児の痛み、テレパシー、遠隔身体的効果、スピリチュアル・ヒーリング、 ~54p

第 4 章 生命と意識と光

エントロピーの増大 水の中に広がるインク 死んだら肉体の崩壊

マイナスのエントロピー（シュレインガー） 生きている体

生命エネルギー 気、プラナー、…

光と時間 光にとって時間の流れはない

光の凍結 → 生命エネルギー、意識

巨視的量子凝縮体 多数の原子の波動が一致した状態（コヒーレント）（2001、ノーベル物理学賞）

レーザー冷却→光が入った瞬間（レーザーも止める）に凍結→光を保存→レーザーを当て解凍（図 4-5）

○ラズロ、同。生命体は巨視的な量子系。「ホーズ=アインシュタイン凝縮体」（2001、ノーベル賞）

超伝導。ふつうは極低温。生体分子は常温で 100~1000 キガヘルツの共鳴。（デュール） 108

テレパシー、トランスパーソナル実験。超文化的な結びつき。臨死体験。遠隔身体的な相互結合。

進化理論（すべてが遺伝情報によるとは考えにくい。「人間の精神は一つのエコロジーである」（ハイツツ）

122

#### 図 4-8 人間生命体におけるエネルギーと周波数

体の物質エネルギー  $E_M = mc^2$  これだけだと原子がばらばらになり体が崩壊

生命エネルギー  $E_L = h\nu$  コヒーレントな巨視的量子凝縮体 + 意識

光の凍結

物質の光への変換 ガンマ線バーストが最大 人間の体は光に変換できないくらい大きい

光の物質化 電子と陽電子になる（ディラック） 光から水素原子と反水素原子（1996）→体の一部

人間の生死の境 光の物質化 物質の光へ

宇宙のエネルギー

図 4-11 宇宙の背景放射 宇宙誕生から 38 万年後

この観測結果 → 物質 4%、ダークマター 23%、ダークエネルギー 73%（1998 年の超新星の観測）

ダークエネルギー

宇宙定数（アインシュタイン）負の圧力（爆縮） 生命エネルギー？ 真空のエネルギー？

Cf ラズロ、同。量子真空 61p~

真空の圧力波：2 億 5 年万光年離れたブラックホールから圧力波が発生している。中央ハより 57 オクターブ低い変ロ音の周波数。（NASA チャンドラ X 線研究所）

超高密度であると同時に超流動性をもつ真空が宇宙の基礎をなす粒子を結び付けている。（ブルックヘイブン研究所）

真空がもつコヒーレンスを生み出す性質は、エネルギーの伝達という側面だけではなく、情報の伝達という側面の方が強い。（ハツツ）

ねじれ波は、光速の 10 の 9 乗倍（10 億倍）の群速度で宇宙を結び付けている。（シホフ、アキエフ）ふたつ以上のねじれ波が出会うとき干渉模様が生じ、それが情報を伝える。（カズタケ）

最近の宇宙背景放射（等方的均一）の測定は、宇宙のすべての物質がビッグバンで生まれたとしても、なおも時空はフラットで、宇宙は膨張と収縮の間で正確な均衡を保っている。だが、銀河どうしは膨張し離れている。おそらく、宇宙を膨張させ続ける何らかの宇宙定数がやはり存在するのであろう。量子真空 78p

#### 量子脳理論 図 4-1

脳細胞の中でコヒーレントな光が出ている。トンネルフォトン 体温くらいでも現れる。

波動のそろった光の集合体が心。さらに、光のもっとも重要な保存場所が DNA、という報告も。

時間と意識 時間が流れない：アインシュタインの相対性理論

光そのものには時間がない。光に意識があったとしたら…過去から未来、すべてを知ることが可能に。

## 第5章 意識とホログラム

1. 次元を一つ落として記録できる。
2. 部分が全体の情報を持っている。

宇宙全部が1枚のホログラム (ト7-7) cf アカシック・レコード

ホログラフィック限界 情報量の上限 2次元で考える 図5-2

$I_{HB} \leq 1.2R^2 \times 10^{66}$  (bit) Rは空間の半径 (cm)。

真空の情報量=普通の物質・エネルギーの20桁以上

三次元境界ホログラムと意識情報

人間の意識 図5-3 図4-8参照

普遍エントロピーの限界: 物質・エネルギーがあるときの情報量限界

$I_U \leq 2\pi ER/hc \ln 2$  真空の情報量より20桁以上小さい

両者の間の「情報」: 人間の意識にかかわっていると考えられる。生命エネルギーや物質身体情報も。

図5-4

ホログラフィック原理と相対性理論

→ 情報・エネルギー・質量 お互いに変換可能であるということ。

図5-3 非局在情報 → 意識、光凍結の生命エネルギー、脳や体(物質)の原子  
(海) (波)

意識はそれだけで(物質がなくても)存在する。 脳は意識の検出器。

超弦理論と人間原理 一心があるから宇宙が存在する?

超弦理論 無数の宇宙が並行宇宙として存在する。

そのなかで意識を持つ生命体(たとえば人間)がいる宇宙だけが認識されるという「人間原理」。

〇ラズロ、同。微調整されている定数は30個以上。ビッグバン理論、揺らぎ理論だけでは説明できない。

メタヴァースからの情報継承。82~3

## 第6章 物理学から見たスピリチュアリティ

図6-1 生命と医療のホログラム 図5-3に医療を対応させたもの

スピリチュアル・ヒーリング→心身医学→生化学k的な医療

意識情報のエネルギー変換モデル+量子脳理論

脳細胞内にコヒーレントなトンネルフォトンが発生→脳波の発生、ホルモンなど微量伝達物質の合成、

→DNAから身体全体の健康に

スピリチュアル・ヒーリングと共時性(シンクロ)

三次元境界ホログラムの上で、ある2つの意識情報が共鳴し、シンクロが生じる。

非局在情報と個人の意識情報の波動が一致してコヒーレントになっている状態。瞑想、祈り。

虚数時間ホログラムモデル

三次元境界ホログラム上では、心・物質・時間・空間は区別できず、一つの情報として。

時間と空間の境界がなくなり、統合体を形成。

宇宙開始以前に存在すると考えられる虚数時間

個人と非局在の重なっている領域の情報 虚数時間同士の積により実時間が現れる。

図6-4 重ね合わせ → 共時性 → 情報転移

## 意識波動関数ホログラムモデル

図 6-5 共鳴 → 共時性 → 情報転移

### ヒーラーと患者の関係

ヒーラーが非局在情報へ同調する能力

意識波動関数：周期が大きく、振幅が大きい

光的な波動エネルギー：高い振動数と大きな振幅

前者の振動数と、後者の周期には比例的な関係があるかも

患者との同調能力

## 第7章 意識の深化と拡大

ホログラム ①高次元記録再生、 ②部分が全体の情報を持っている

人間の意識・肉体：宇宙全体の空間と時間に関する情報（情報量は小さいものの）

臨死体験：パノラマ体験、フラッシュバック、ときにはフラッシュフォワードも。善悪の評価も。

人生への猛烈な反省と、人生の目的すなわち「愛すること」がはっきりとわかることが多い。

宇宙の波動関数：ホーキング

観測問題：波動関数は観測した瞬間にわかる

宇宙の初期 無数の宇宙、そのうちの1つがトンネル効果により時間と空間をもつ宇宙を生む。

意識の波動関数と超意識

意識波動関数が宇宙または非局在情報波動関数と同調し、宇宙全体の質量を有するようになれば、ほぼ無限大の質量を有することになる。相対性理論から、この非常に強い重力場の中では、時間が止まってしまう。

図 7-4 共鳴した領域が共時性として4次元時空に現れ、スピリチュアル・ヒーリングが起こる。

宇宙の情報量と意識

宇宙全体のエネルギー 10 の 72 乗 J

ダーク・エネルギー 処理速度：10 のマックス 18 乗 Hz、 メモリー：10 の 123 乗 bit

通常物質 10 の 14 乗 Hz、 10 の 92 乗 bit

物質宇宙から見るとダークエネルギー宇宙は膨大な記憶容量で、時間がほぼ凍結しているように見える。

情報の記憶という概念は、量子場にある情報が健康に影響を与える可能性を示している。ゼロポイントフィールド・エネルギーが存在し、原子が崩壊しないで安定に存在し、大きなエネルギーを供給する可能性。

微細なレベルの量子論、宇宙全体の相対性理論。合体させた究極理論は未完成。超弦理論、M 理論。

11次元時空、余剰7次元がダークエネルギーと関わり、意識情報・生命エネルギーと関わっている可能性。

超意識状態での直観

一瞬のインスピレーション。エネルギーを最小化させる法則の下で。

肉体的には通常の生活を送りながら、心が超意識状態にあるのがベストです。瞑想。

夢のメッセージ

超意識と瞑想 ①すべての人に対して同じ愛を注ぐ、②自己制御、③瞑想、睡眠を減らしてでも。

## 第8章 イメージ想起の効果

イメージ想起の実験 印堂（上丹田・額）、 （中丹田・胸）、 丹田（下丹田・下腹）

イメージ想起時の脳波変化

3 丹田に太陽光イメージ：右脳前頭葉  $\theta$  波と  $\alpha 1$  波が増加。特に上丹田。

$\theta$  波：覚醒と睡眠の中間状態。深い瞑想状態。 $\alpha$  波はリラックス。

脳内光イメージとホログラム

意識は三次元境界ホログラム上の情報（第 3 章）。脳内イメージの 3 次元境界ホログラム上の光子は、私たちが存在している 4 次元時空中の光（光子）と完全に等価となる。心の中のイメージは、現実と完全に等しくなる。

イメージ処理は右脳で。

第 9 章 偶然の一致—シンクロニシティ

ユング

共時性 虚数時間ホログラムモデル：虚数が重なって実時間へ

波動関数モデル : 周期がコヒーレント

心の焦点とシンクロ

正しいと思う信念に従って行動すること。動揺せず平静を。楽しいことでも節度を持ち、執着しない。

心の奥底からのかすかな声、直観を。真の自己を知ること。今が大切。

第 10 章 光と神

学生時代のアイシュタイン

グラハマー(2005、ノーベル賞) 光のコヒーレンス → 将来、心の正体が「光の集合体」であることが解明…

第 11 章 よりよい人生のためのスピリチュアルな法則

英知を体得すること。そこに慈愛が生まれてくる。

イメージの現実化 マイナスのイメージはプラスに。本当に起こるから。

微笑みと沈黙、心の支配、目標への集中力、因果律、同種の原則。健全な心と体。